

第2章 調査結果の概況

(1) “明るく正しい選挙” についての評価 (Q1)

- ・今年4月7日に行われた“統一地方選挙”について、「非常に“明るく正しく”行われたと思う」人は12.1%、「まあ“明るく正しく”行われたと思う」人は62.4%で、両者を合わせると7割以上の人は、“明るく正しく”行われたと評価している。
- ・一方、「あまり“明るく正しく”行われなかったと思う」人は17.3%、「まったく“明るく正しく”行われなかったと思う」人は5.2%で、合わせると“明るく正しく”行われなかったと思う人は2割強みられる。
- ・これまでの調査と比較すると、「“明るく正しく”行われたと思う」人の割合は平成7年以降ほとんど同じである。

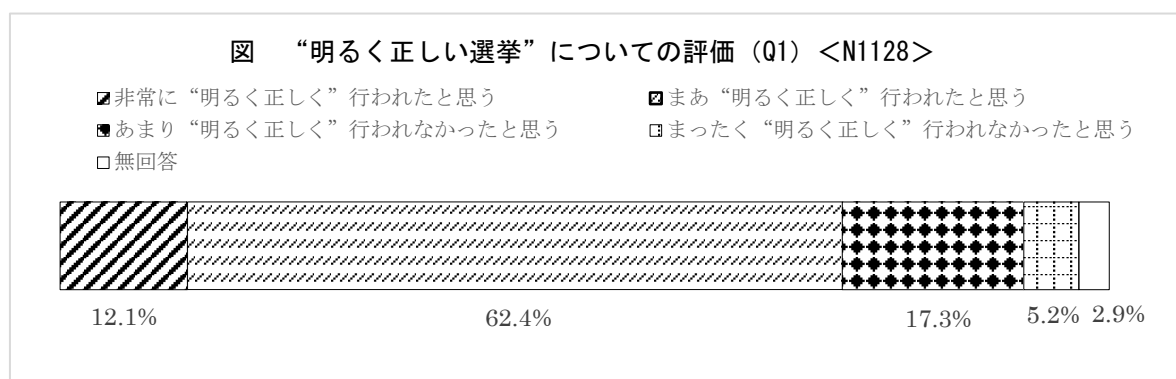


表 “明るく正しい選挙” についての評価 (時系列変化)

	回収数	“明るく正しく”行われたと思う	非常に“明るく正しく”行われたと思う	まあ“明るく正しく”行われたと思う	どちらともいえない	“明るく正しく”行われなかったと思う	あまり“明るく正しく”行われなかったと思う	まったく“明るく正しく”行われなかったと思う	無回答
昭和54年	1431	30.7	—	—	39.4	15.6	—	—	14.5
昭和58年	1857	52.8	3.7	49.1	—	37.0	33.3	3.7	10.2
昭和62年	1921	65.6	4.3	61.3	—	27.9	24.8	3.1	6.5
平成3年	1656	59.7	3.9	55.8	—	33.2	29.5	3.7	7.2
平成7年	1694	72.1	4.6	67.5	—	24.0	20.7	3.3	3.9
平成11年	1650	71.8	4.8	67.0	—	22.9	20.6	2.3	5.3
平成15年	838	70.5	6.0	64.6	—	27.2	23.3	3.9	2.3
平成19年	640	75.5	5.5	70.0	21.7	21.7	18.6	3.1	2.8
平成23年	1201	70.4	5.3	65.0	—	26.8	22.6	4.2	2.8
平成27年	966	70.4	8.3	62.1	—	27.0	22.5	4.6	2.6
平成31年	1128	74.5	12.1	62.4	—	22.5	17.3	5.2	2.9

注) 数値は回収数を100とした%

(2) 寄附禁止等の認知状況 (Q2)

- ・ 寄附禁止等の内容で違反と思われるものを複数回答で挙げてもらったところ、8割強の人は何らかの項目を認知しており、平均回答個数も4.3個みられ、認知は高い。8項目中6項目については半数近くの人が認知しており、中でも認知が高いのは、「政治家が町内の各種会合にお酒を差し入れること」72.3%、「政治家に町内の祭りの寄附を求めること」63.7%などの町内会に対する寄附行為に関する項目である。
- ・ 前回（平成27年）、寄附禁止等について、企業からの寄附に関する認知が上がっていたが、今回は減少した。
- ・ 「よくわからない」の割合が、一定数存在しており、今後也要注意すべきと思われる。

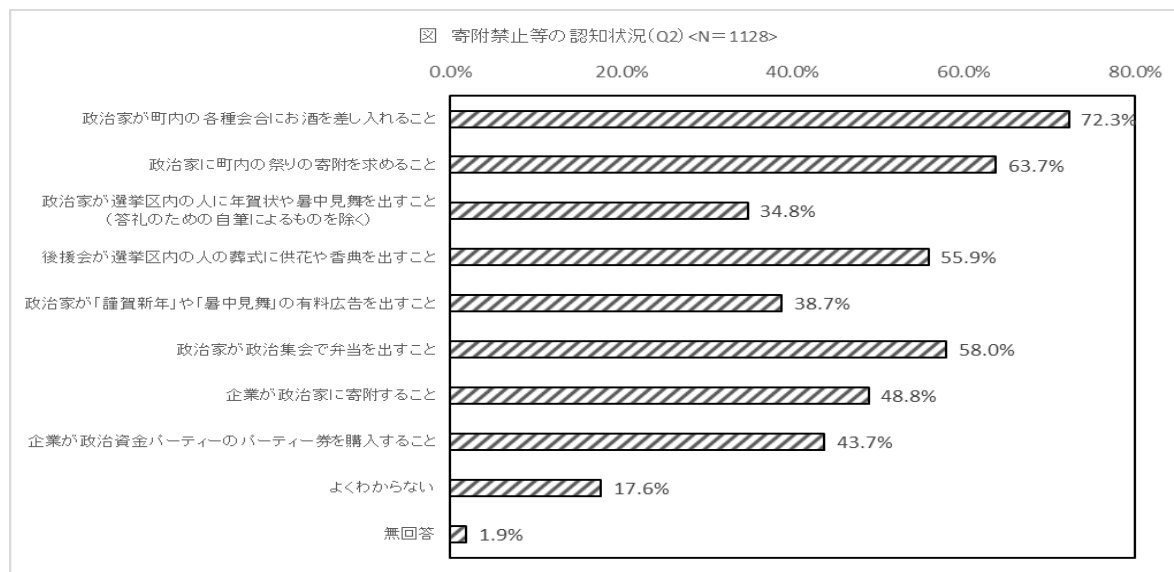


表 寄附禁止等の認知状況 (時系列変化)

	回収数	政治家が町内の各種会合にお酒を差し入れること	政治家に町内の祭りの寄附を求めること	政治家が選挙区内の人に年賀状や暑中見舞を出すこと (答礼のための自筆によるものを除く)	後援会が選挙区内の人の葬式に供花や香典を出すこと	政治家が「謹賀新年」や「暑中見舞」の有料広告を出すこと	政治家が政治集会で弁当を出すこと	企業が政治家に寄附すること	企業が政治資金パーティーのパーティー券を購入すること	よくわからない	無回答
平成3年	1659	76.3	69.7	40.8	59.1	38.8	60.6	—	—	9.1	3.7
平成7年	1694	77.0	70.4	3.8	58.0	31.9	59.6	61.4	60.6	4.5	1.8
平成11年	1650	74.7	66.8	30.8	54.5	29.9	56.5	60.3	57.1	5.6	4.7
平成15年	838	75.1	64.7	27.4	57.3	25.8	53.5	58.1	53.2	6.4	1.4
平成19年	640	74.4	61.4	25.5	56.7	24.4	59.4	52.8	52.0	13.3	1.4
平成23年	1201	72.1	59.5	32.4	53.1	32.3	53.4	47.5	43.5	10.2	1.4
平成27年	966	71.4	61.8	32.4	57.3	35.5	59.5	55.5	49.2	7.6	5.9
平成31年	1128	72.3	63.7	34.8	55.9	38.7	58.0	48.8	43.7	17.6	1.9

注) 数値は回収数を100とした%

(3) 選挙違反の認知状況 (Q3)

- ・この設問では、選挙違反の内容に関し違反と思われるものを複数回答で挙げてもらった。選択肢の中には、直ちに違反といえないものが含まれているので、注意が必要である。8割は何らかの項目を回答しており、平均で3.1個を挙げている。最も多く認知されていた違反行為は「選挙期間中、知人などの家を訪ねて特定候補者への投票をたのむこと」48.3%で、次いで「選挙期間中に、候補者が暑中見舞や年賀状を知人に出すこと」46.7%となっている。
- ・しかし、直ちに選挙違反とはいえない項目について違反とする回答も相当に多く、「選挙期間中に、映画や演劇等の幕間に特定の候補者が、投票をたのむこと」(59.7%)など、有権者の感じ方と実際の違反行為との間には乖離がある。
- ・加えて、「よくわからない」との回答も一定数存在しており、正しい知識の周知には今後も取り組みが必要と思われる。

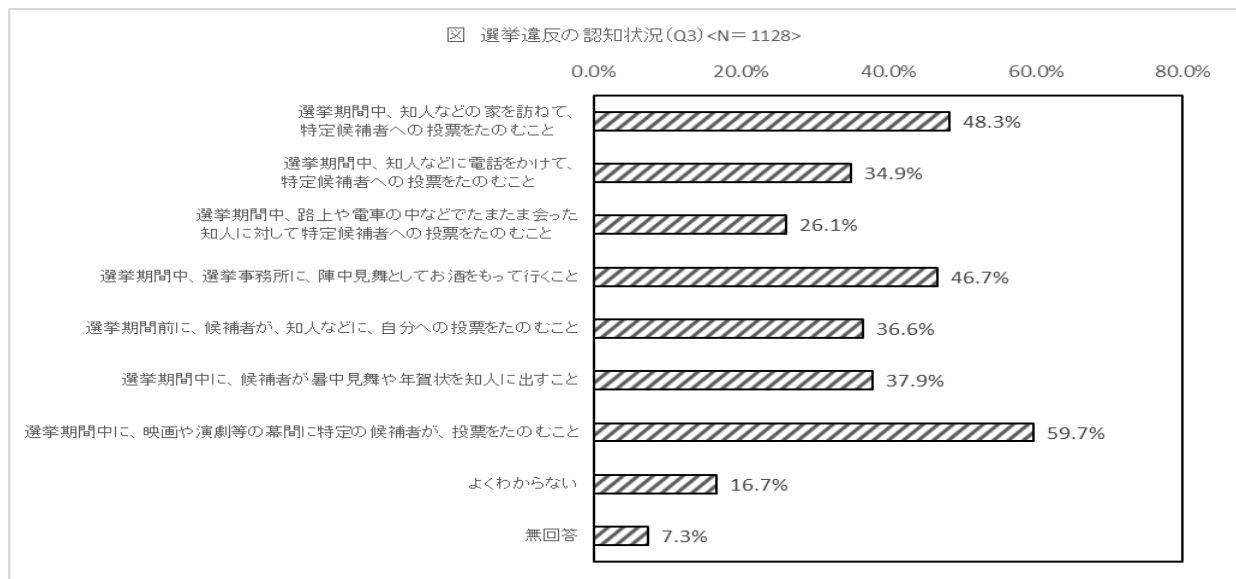


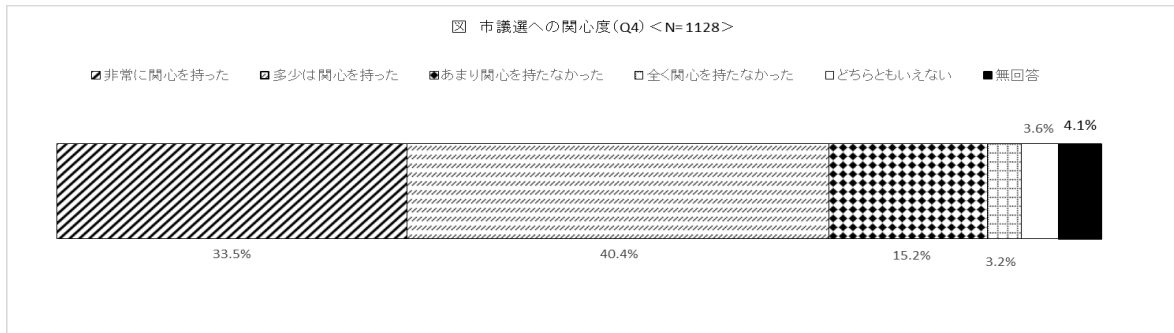
表 選挙違反の認知状況（時系列変化）

	回収数	選挙期間中、知人などの家を訪ねて、 特定候補者への投票をたのむこと	選挙期間中、知人などに電話をかけた 選挙期間中、知人への投票をたのむこと	選挙期間中、路上や電車の中などで、 たまたま会った知人に対して特定候補 者への投票をたのむこと	選挙期間中、選挙事務所に行くこと、陣中見舞 としてお酒をもって行くこと	選挙期間前に、候補者が、知人など に、自分への投票をたのむこと	選挙期間中に、候補者が暑中見舞や年 賀状を知人に出すこと	選挙期間中に、映画や演劇等の幕間に 特定の候補者が、投票をたのむこと	よくわからない	無回答
昭和62年	1921	51.0	30.0	23.1	28.7	37.5	29.2	61.8	7.2	7.0
平成3年	1659	59.7	40.5	31.0	42.2	42.5	45.2	66.3	9.3	4.3
平成7年	1694	55.4	31.7	24.7	42.9	39.0	40.5	67.7	8.3	4.3
平成11年	1650	49.9	31.5	24.1	42.1	37.2	37.0	63.6	10.5	7.2
平成15年	838	48.6	32.3	22.9	40.1	38.3	32.9	61.8	7.6	7.4
平成19年	640	48.4	31.3	21.4	41.6	34.5	32.8	63.3	15.3	2.8
平成23年	1201	53.9	34.5	25.8	45.7	38.1	36.1	64.2	12.1	2.2
平成27年	966	48.8	34.3	24.8	46.2	33.1	35.6	62.0	8.7	10.6
平成31年	1128	48.3	34.9	26.1	46.7	36.6	37.9	59.7	16.7	7.3

注）数値は回収数を 100 とした%

(4) 市議選への関心度 (Q4)

- ・今回の市議会議員選挙について「非常に関心を持った」人は 33.5%、「多少は関心を持った」人は 40.4%で、合わせると関心を持った人は 73.9%を占める。一方、「あまり関心を持たなかった」15.2%、「全く関心を持たなかった」 3.2%と合わせると関心を持たなかった人は 18.4%となる。



(5) 市議会議員選挙の投票状況 (Q5)

- ・今回の市議会議員選挙に「投票した」人は 73.5%を占める。
- ・投票した人の割合は平成 7 年以降 7 割台とほぼ変わらない。

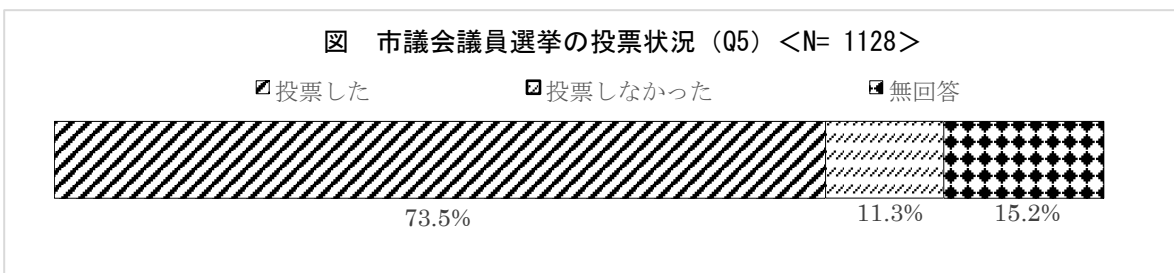


表 市議会議員選挙の投票状況 (時系列変化)

	回収数	投票した	投票しなかった	無回答
昭和 54 年	1368	80.3	18.8	0.9
昭和 58 年	1857	77.5	21.4	1.1
昭和 62 年	1921	74.3	25.2	0.5
平成 3 年	1574	69.4	30.4	0.2
平成 7 年	1496	73.3	26.5	0.2
平成 11 年	1650	75.5	24.1	0.4
平成 15 年	838	75.7	23.7	0.6
平成 19 年	640	73.6	26.1	0.3
平成 23 年	1201	76.3	23.7	0.0
平成 27 年	966	77.3	16.7	6.0
平成 31 年	1128	73.5	11.3	15.2

注) 数値は回収数を 100 とした%

(6) 棄権の理由 (Q6)

- ・一方、「投票しなかった」人は11.3%。棄権の理由をひとつだけ聞いたところ、最も多い理由は「用事があったから（忙しかったから）」21.3%、次いで「病気だったから」18.1%、以下、「支持する候補者がいなかったから」7.1%、「候補者の政策や人物などがよくわからない」6.3%と続いている。
- ・棄権した主な理由としては、前回同様「用事があったから（忙しかったから）」が21.3%で最も高い。

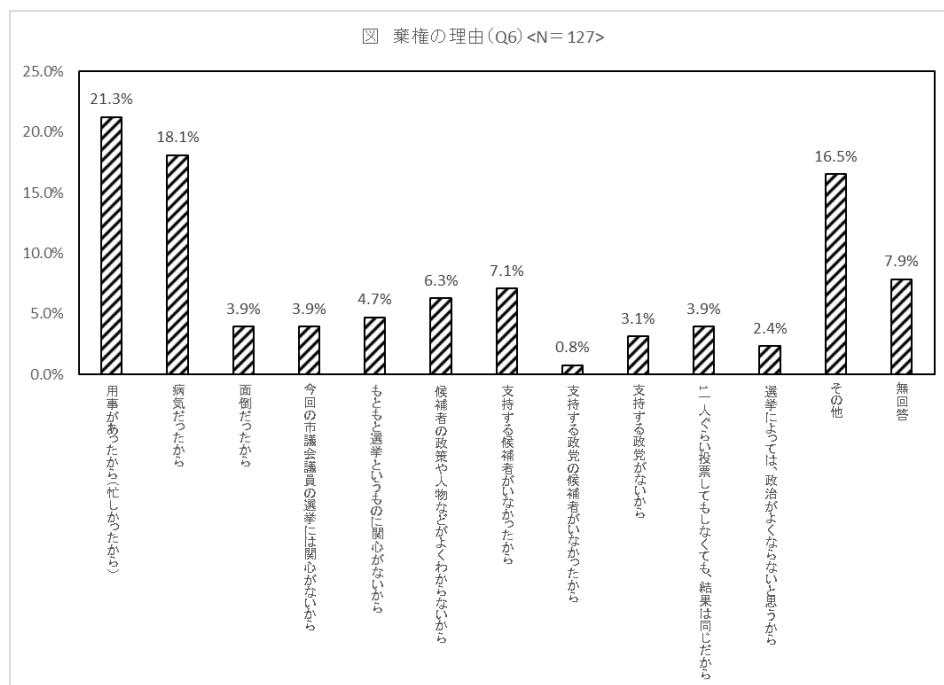


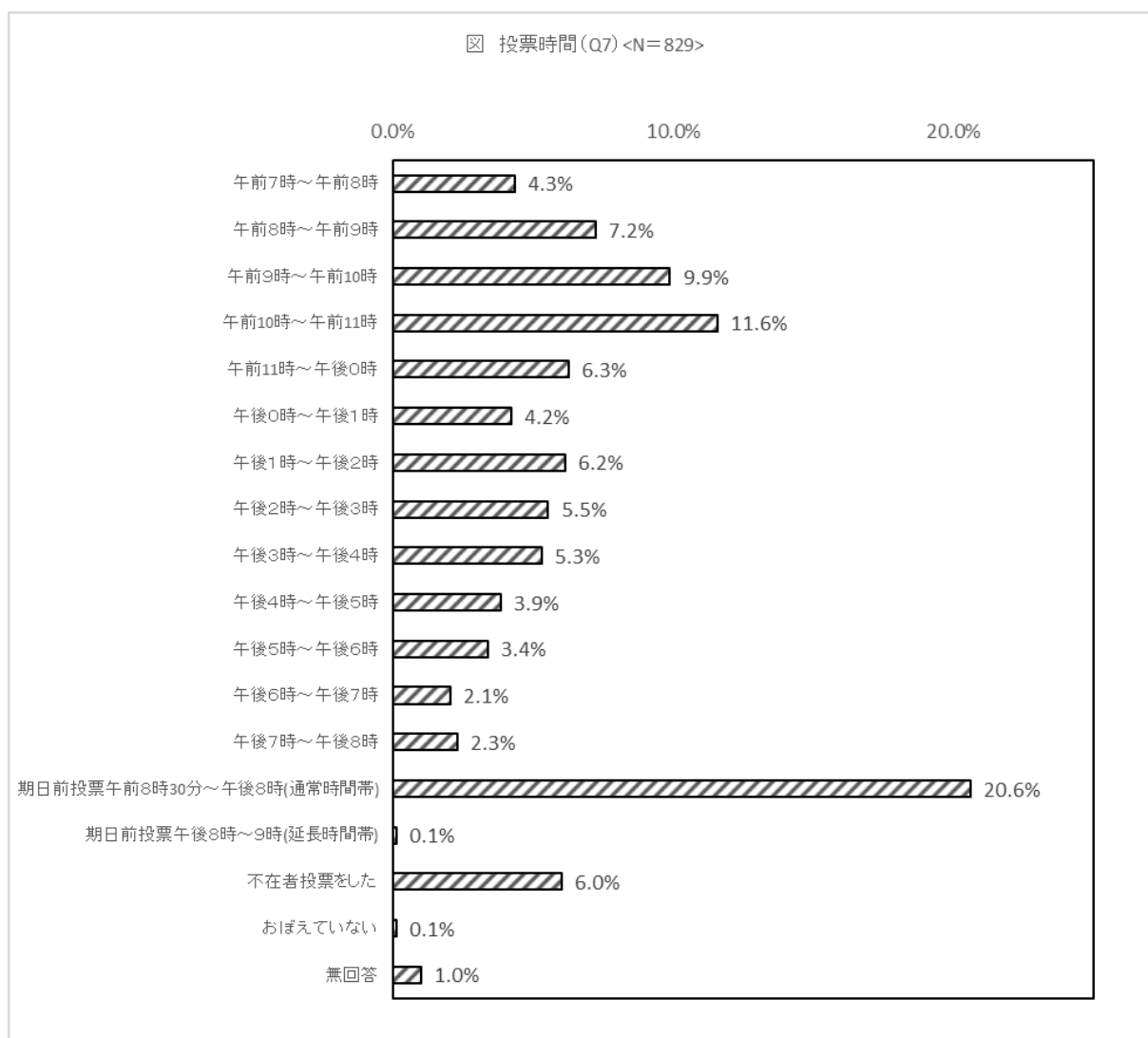
表 棄権の理由 (時系列変化)

	回収数	用事があったから(忙しかったから)	病気だったから	面倒だったから	市議会議員の選挙には関心がないから	もともと選挙というものに関心がないから	候補者の政策や人物などがよくわからないから	支持する候補者がいなかったから	支持する政党の候補者がいなかったから	支持する政党がないから	一人ぐらいい票投してもなくても、結果は同じだから	選挙によつては、政治がよくなると思わないから	その他	無回答
昭和54年	257	41.6	15.9	3.5	3.5	4.3	7.0	6.6	-	1.6	2.7	4.7	5.8	2.7
昭和58年	397	30.5	12.8	2.3	3.3	6.3	13.1	7.8	1.0	1.8	2.3	7.3	9.3	2.3
昭和62年	485	33.8	15.1	2.1	1.4	4.9	17.5	7.0	0.6	0.6	1.6	5.2	8.0	2.1
平成3年	478	29.9	11.7	2.7	3.3	4.2	18.2	10.7	1.3	1.3	1.5	7.1	5.2	2.9
平成7年	397	31.2	12.8	2.8	2.5	8.8	15.6	10.6	1.3	1.8	2.3	5.0	3.5	1.8
平成11年	397	27.2	15.1	3.8	2.8	8.1	14.1	9.3	2.5	1.8	1.8	6.3	5.8	1.5
平成15年	199	32.2	11.1	2.0	6.5	3.5	22.6	10.6	2.0	1.0	1.5	7.5	3.0	0.5
平成19年	167	31.1	9.0	1.2	7.2	5.4	15.6	9.6	0.6	1.8	0.0	3.6	9.0	6.0
平成23年	285	29.1	13.0	1.8	6.0	5.6	16.5	9.5	0.7	2.8	1.1	4.9	4.9	4.2
平成27年	161	26.7	17.4	3.7	9.3	4.3	8.7	9.3	1.2	1.9	1.2	6.2	5.6	4.3
平成31年	127	21.3	18.1	3.9	3.9	4.7	6.3	7.1	0.8	3.1	3.9	2.4	16.5	7.9

注) 数値は回収数を100とした%

(7) 投票時間 (Q7)

- ・投票した人の4割弱は午前中に投票を済ませており、「午前10時～午前11時」11.6%、「午前9時～午前10時」9.9%が多い時間帯である。午後に投票した人は4割弱である。また、「期日前投票」をした人が20.7%、「不在者投票」をした人が6.0%みられる。



(8) 投票の理由 (Q8)

- 投票した理由を複数回答で聞いたところ、最も多い理由は「投票するのは市民の義務だから」62.2%。以下、「政治を良くするには投票することが大切だから」62.1%、「地方自治は、自分たちの代表を選ぶことから始まるから」40.3%と続いている。
- 投票した主な理由については、前回と比べ、「政治を良くするには投票することが大切だから」が6.1%増加し、「今の政治は良くないので改めたいと思うから」が7.1%減少した。

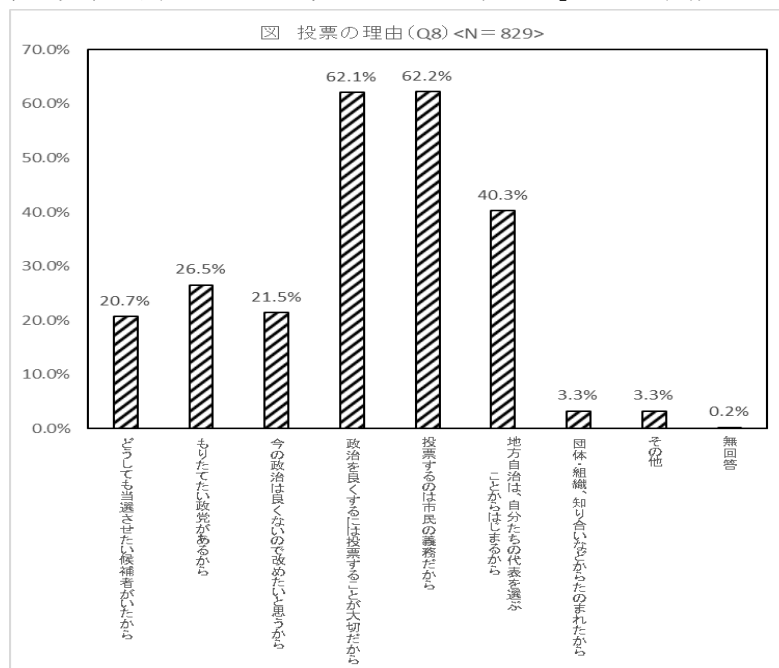


表 投票の理由 (時系列変化)

	投票した人	どうしても当選させたい候補者がいたから	もりたてたい政党があるから	今の政治は良くないので改めたいと思うから	政治を良くするには投票することが大切だから	投票するのは市民の義務だから	地方自治は、自分たちの代表を選ぶことから始まるから	団体・組織、知り合いなどから	その他	無回答
昭和54年	1099	20.3	5.2	4.0	16.0	33.5	14.7	3.5	0.5	2.3
昭和58年	1439	15.6	6.6	5.1	18.2	32.9	16.7	3.3	0.9	0.7
昭和62年	1427	13.6	5.6	7.7	18.9	32.4	16.2	2.4	1.1	2.1
平成3年	1093	10.2	6.4	6.8	21.5	34.5	17.0	2.3	0.8	0.5
平成7年	1096	17.5	3.9	12.5	20.4	28.9	12.0	2.3	1.4	1.0
平成11年	1246	11.9	3.2	6.3	24.1	34.3	13.4	2.9	1.9	2.0
平成15年	643	15.3	4.7	8.2	22.6	31.1	10.4	4.6	2.2	4.6
平成19年	471	12.1	4.9	8.9	28.2	28.9	10.8	2.1	1.9	2.1
平成23年	916	8.7	9.7	11.9	24.6	29.7	10.2	2.6	2.2	0.4
平成27年	747	19.4	27.3	28.6	56.0	65.2	41.5	3.9	3.1	0.7
平成31年	829	20.7	26.5	21.5	62.1	62.2	40.3	3.3	3.3	0.2

注) 数値は回収数を100とした%

(9) 候補者決定の時期 (Q9)

- ・市議会議員選挙で選んだ候補者に投票することを決めた時期は「選挙期間に入る前から決めていた」が 42.8%と最も高く、これに「選挙期間の初めごろに決めた」16.6%、「選挙期間の中ごろに決めた」10.3%を加えると、約 7 割の人が選挙期間の中ごろまでに決めている。
- ・前回と比較すると、「選挙期間に入る前から決めていた」「選挙期間の初めごろに決めた」という、比較的早い時期から決めている人の割合が上がり、「選挙期間の終わりに決めた」あるいは「投票当日に決めた」人の割合が減る傾向がみられた。

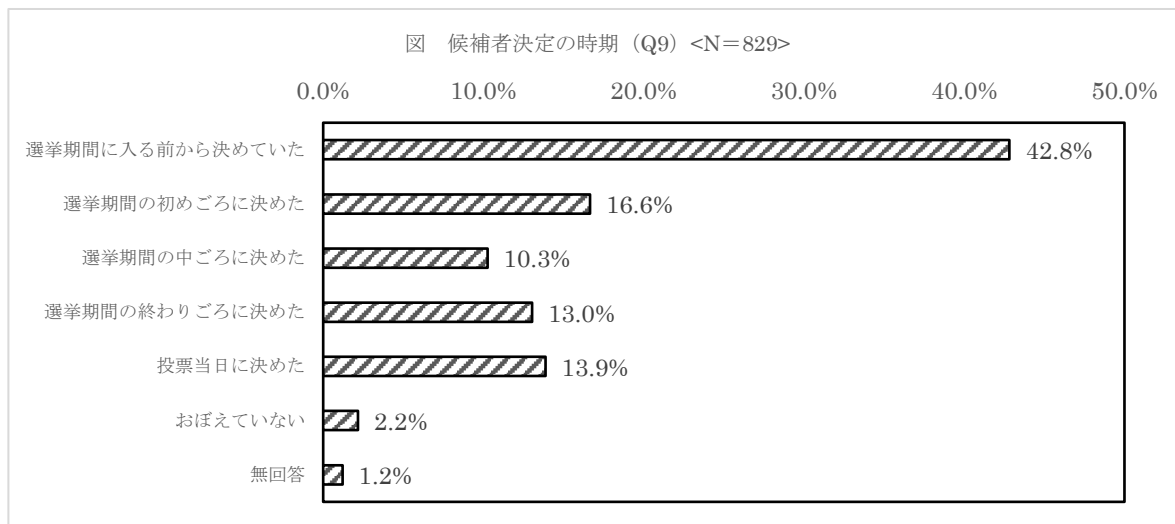


表 候補者決定の時期 (時系列変化)

	投票した人	選挙期間に入る前から決めていた	選挙期間の初めごろに決めた	選挙期間の中ごろに決めた	選挙期間の終わりに決めた	投票当日に決めた	おぼえていない	無回答
昭和 54 年	1099	42.2	18.5	13.8	14.9	7.6	1.8	0.9
昭和 58 年	1439	44.2	17.5	12.4	14.7	8.6	1.6	1.0
昭和 62 年	1427	49.4	13.9	11.6	14.0	8.3	1.6	1.1
平成 3 年	1093	43.1	13.6	12.5	14.6	11.2	2.9	2.0
平成 7 年	1096	41.1	13.9	10.5	19.1	12.2	2.3	0.9
平成 11 年	1246	38.0	13.2	13.6	16.5	13.6	2.8	2.1
平成 15 年	643	39.1	11.5	10.3	16.2	15.6	1.9	5.4
平成 19 年	471	40.8	11.0	10.8	18.3	16.3	2.1	0.6
平成 23 年	916	36.9	12.8	8.6	21.3	17.4	2.5	0.5
平成 27 年	747	39.5	14.5	11.1	17.3	15.0	1.5	1.2
平成 31 年	829	42.8	16.6	10.3	13.0	13.9	2.2	1.2

注) 数値は回収数を 100 とした%

(10) 候補者決定に役立ったもの (Q10)

- ・候補者決定に役立った情報を複数回答で挙げてもらったところ、「テレビや新聞などの選挙報道(解説)」が 35.9%と最も高く、以下、「政党の日常の政治活動など」が 33.7%、「選挙公報」28.6%、「候補者の日常の政治活動など」26.4%、「候補者の演説会や街頭での演説など」20.6%と続いている。

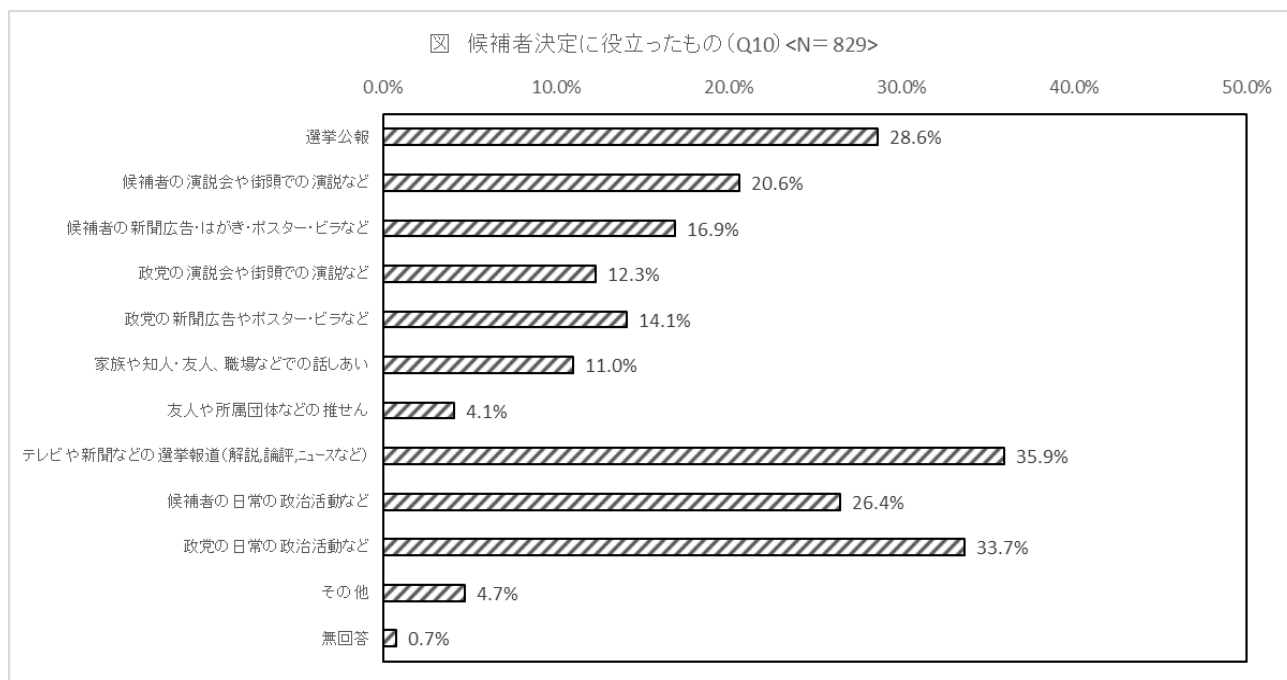


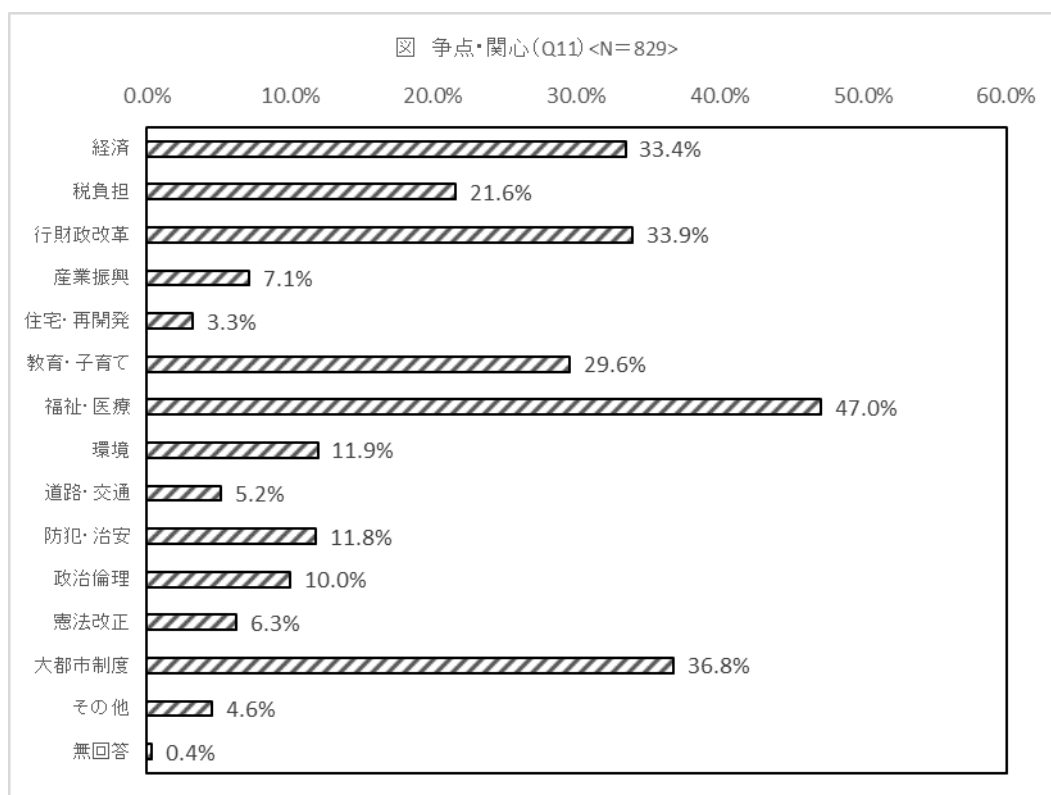
表 候補者決定に役立ったもの (時系列変化)

	投票した人	選挙公報	候補者の演説会や街頭での演説など	候補者の新聞広告・ポスター・ビラなどが	政党の演説会や街頭での演説など	政党の新聞広告やポスター・ビラなど	家族や知人・友人、職場などでの話しあい	友人や所属団体などの推せん	報道（解説、論評、ニュースなど）	テレビや新聞などの選挙	候補者の日常の政治活動など	政党の日常の政治活動など	その他	無回答
昭和62年	1427	15.9	19.5	5.5	6.9	5.5	11.0	7.4	9.9	33.8	19.1	2.5	1.8	
平成3年	1093	21.0	21.4	7.3	7.3	7.4	9.4	7.3	11.6	30.2	16.4	1.5	2.7	
平成7年	1096	21.0	16.6	9.6	6.3	7.6	13.6	6.0	12.5	33.9	13.8	2.1	3.4	
平成11年	1246	22.6	16.3	10.6	7.0	9.2	10.0	6.7	12.2	26.4	14.5	2.4	4.3	
平成15年	643	24.8	24.3	14.8	12.5	11.4	14.8	11.8	10.3	29.2	16.2	3.3	6.3	
平成19年	471	29.9	26.5	13.0	10.8	10.8	14.6	11.3	8.7	29.9	20.8	4.2	0.6	
平成23年	916	27.9	20.4	14.6	11.8	13.9	11.5	8.3	20.5	22.2	21.7	3.7	1.3	
平成27年	747	28.6	25.0	13.1	18.6	15.8	12.0	9.1	26.5	24.9	36.0	4.0	1.7	
平成31年	829	28.6	20.6	16.9	12.3	14.1	11.0	4.1	35.9	26.4	33.7	4.7	0.7	

注) 数値は回収数を 100 とした%

(11) 争点・関心 (Q11)

・投票した人の関心を持った点を聞いたところ、最も高いのが「福祉・医療」47.0%で、次いで、「大都市制度」が36.8%となっている。その後、「行財政改革」33.9%、「経済」33.4%、「教育・子育て」が29.6%と続いている。



(12) 政党か個人か (Q12)

- ・今回の選挙における政党と候補者個人の重視度について、「政党を重くみた」が55.4%、「候補者個人を重くみた」が19.9%と、政党を重視している割合が高い。また、「いちがいにいえない」人は12.3%みられる。
- ・政党・候補者個人の重視度をこれまでの調査と比べると、「政党を重くみた」人が前々回に大幅に増加したが、その傾向は続き、今回も55.4%と高い重視度となった。他方、「候補者個人を重くみた」人は、19.9%で、今回も低い数値となっている。

図 政党・候補者個人の重視度 (Q12) <N=829>

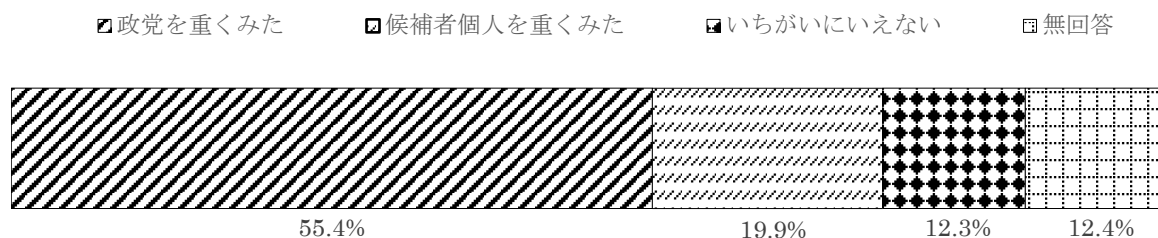


表 政党・候補者個人の重視度 (時系列変化)

	投票した人	政党を重くみた	候補者個人を重くみた	いちがいにいえない	無回答
昭和54年	1099	30.8	53.0	13.4	2.7
昭和58年	1439	35.8	47.0	14.5	2.7
昭和62年	1427	38.4	44.8	13.5	3.2
平成 3年	1093	37.5	42.5	17.5	2.6
平成 7年	1096	21.6	59.0	17.5	1.8
平成11年	1246	30.3	43.3	21.5	4.9
平成15年	634	39.7	40.7	12.0	7.6
平成19年	471	39.9	38.9	18.9	2.3
平成23年	916	55.2	26.7	14.8	3.2
平成27年	747	61.2	17.5	13.0	8.3
平成31年	829	55.4	19.9	12.3	12.4

注) 数値は回収数を100とした%

(13) 候補者重視の理由 (Q13)

- ・同様に、候補者個人を重視した人にその理由をひとつだけ聞いたところ、「その候補者は、識見・実績の点ですぐれているから」が **35.8%**と最も高く、次いで、「その候補者をよく知っている（信頼できる）から」が **17.0%**、「他の候補者よりましだったから」が **15.8%**となっている。「市議会では、人物がとくに大切だから」は **15.2%**だった。
- ・候補者個人を重くみる理由では、これまでの調査と比べて「その候補者は、識見・実績の点ですぐれているから」という回答が多く、「その候補者をよく知っている（信頼できる）から」が前回に引き続き、下がっている。

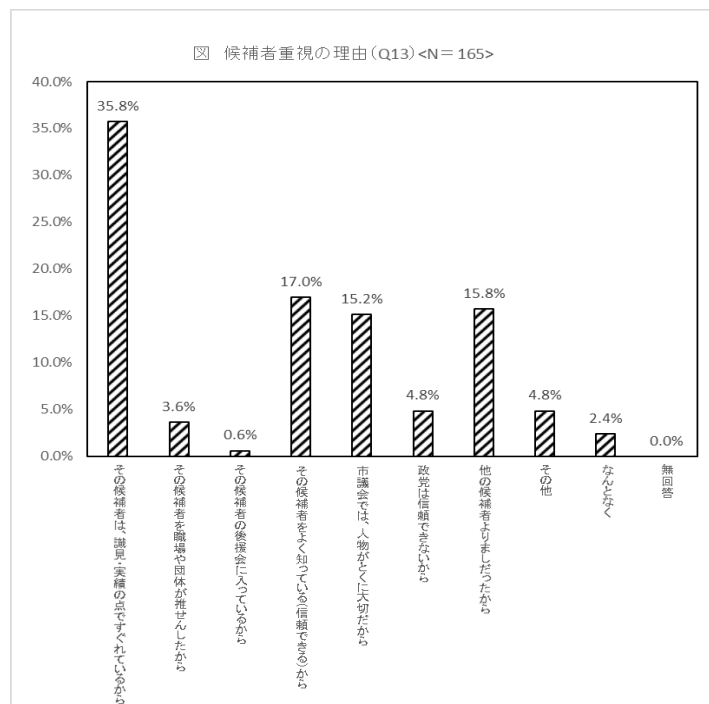


表 候補者重視の理由

	候補者個人を重くみた	その候補者は、識見・実績の点ですぐれているから	職場や団体がその候補者を推せんしたから	その候補者の後援会に入っているから	その候補者をよく知っている（信頼できる）から	市議会では、人物がとくに大切だから	政党は信頼できないから	他の候補者よりましだったから	その他	なんとなく	無回答
昭和54年	583	26.9	3.8	—	22.3	36.2	8.4	—	0.3	2.1	
昭和58年	676	28.1	3.7	5.0	24.5	29.7	3.3	—	1.3	3.0	1.5
昭和62年	640	31.7	2.0	4.8	22.5	32.5	2.2	—	0.5	2.3	1.4
平成 3年	464	30.2	1.9	5.2	18.1	33.0	5.0	—	1.1	4.1	1.5
平成 7年	647	24.9	3.4	4.8	19.6	31.1	8.2	—	2.2	3.9	2.0
平成11年	540	22.8	3.0	6.1	21.7	31.5	6.9	—	1.7	4.6	1.9
平成15年	258	18.2	3.9	6.6	29.8	20.2	4.3	12.0	1.6	2.7	1.2
平成19年	183	15.3	1.1	6.0	29.0	19.1	3.3	19.7	2.7	1.6	2.2
平成23年	245	24.3	3.3	3.7	23.7	17.6	4.1	15.9	2.9	2.9	2.4
平成27年	131	22.1	0.0	4.5	21.4	21.4	6.1	19.1	0.8	2.3	2.3
平成31年	165	35.8	3.6	0.6	17.0	15.2	4.8	15.8	4.8	2.4	0.0

(注) 数値は候補者個人を重くみた人を100とした%

(14) 政党重視の理由 (Q14)

- ・政党を重視した人にその理由をひとつだけ聞いたところ、「その政党の政策・活動を支持しているから」が **52.9%**と最も高く、次いで、「その政党は、ほかの政党よりもまだから」 **31.4%**となっている。
- ・政党を重くみる理由では、これまでの調査と比べて「その政党の政策・活動を支持しているから」という回答が **52.9%**と今回さらに増え、「その政党は、他の政党よりもまだから」が引き続き下がっている。

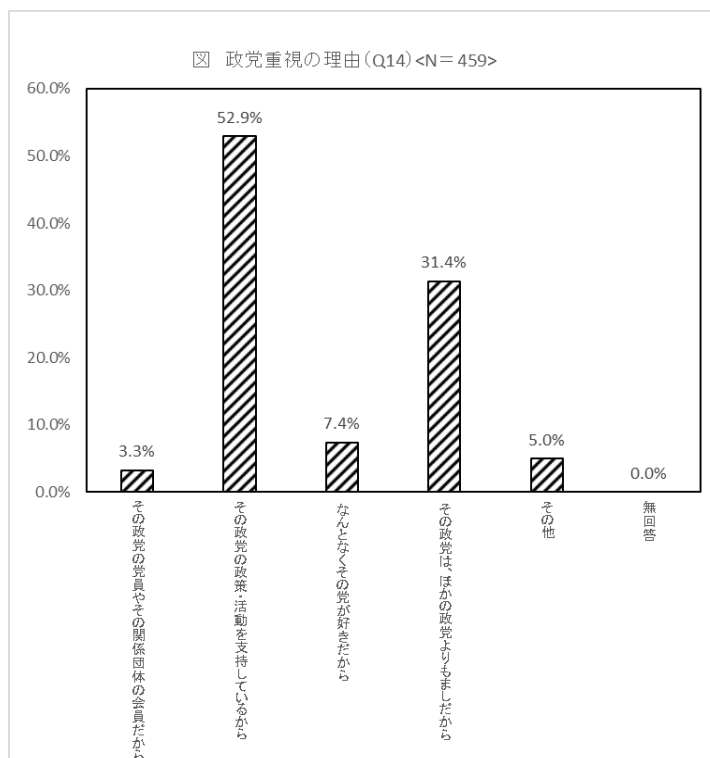


表 政党重視の理由 (時系列変化)

	政党を重くみた	その政党の党員やその関係団体の会員だから	その政党の政策・活動を支持しているから	その政党は、ほかの政党よりもまだから	その他	なんとなく	無回答
昭和54年	339	7.4	36.9	45.7	0.6	4.1	
昭和58年	515	6.4	37.5	43.1	1.2	1.7	1.0
昭和62年	548	7.5	37.8	41.4	2.6	2.7	0.9
平成 3年	410	6.6	30.7	50.2	2.2	2.9	—
平成 7年	237	5.9	38.4	43.9	3.0	0.8	2.1
平成11年	377	5.6	32.4	50.4	2.4	3.4	—
平成15年	252	9.1	29.8	53.6	2.8	4.8	—
平成19年	188	5.9	35.6	53.7	2.7	2.1	—
平成23年	506	2.4	44.5	41.5	4.7	6.5	0.4
平成27年	457	2.8	49.7	35.9	3.1	7.2	1.3
平成31年	459	3.3	52.9	31.4	5.0	7.4	0.0

注) 数値は回収数を 100 とした%

(15) 今回の選挙で接触した活動 (Q15)

- ・今回の市議会議員選挙で接触した活動を複数回答で挙げてもらった。「とくにみたり、きいたりしたものはなし」は9.0%に増え、「無回答」が2.8%いるが、9割弱の人が何らかの活動に接触している。平均回答個数は3.37個で、一人あたり3つ強の活動に接触しているといえる。
- ・接触した活動では、「選挙公報」が38.8%と最も高く、次いで、「ラジオやテレビの選挙報道（解説、論評、ニュースなど）」が36.6%、「候補者のポスター」が33.4%と続いている。
- ・「新聞の選挙報道（解説、評論、ニュースなど）」「ラジオやテレビの選挙報道（解説、評論、ニュースなど）」といったマスコミの選挙報道の接触が増えていることが、今回の特徴となっている。

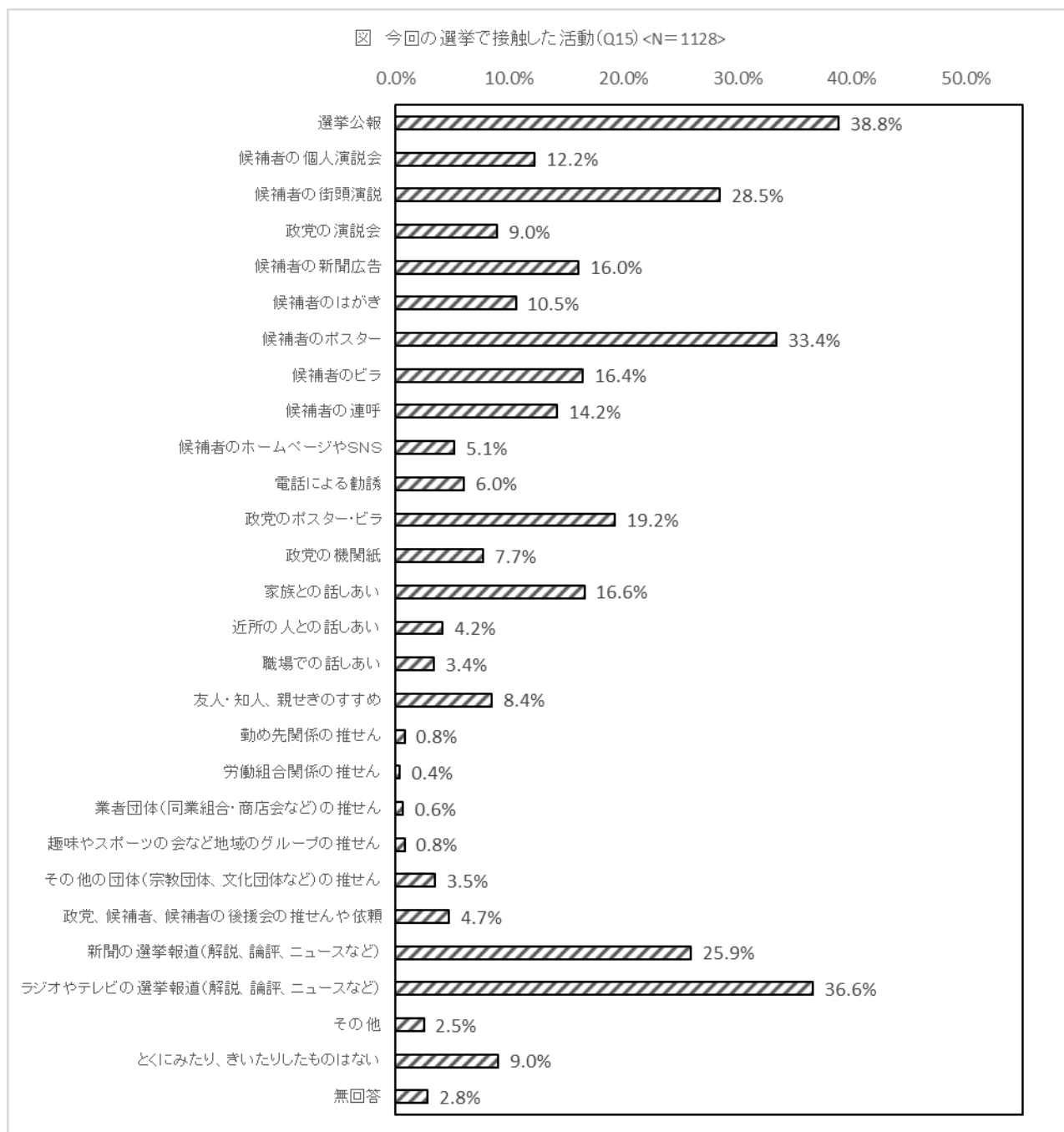


表 今回の選挙で接触した活動（時系列変化）

	回収数	選挙公報	候補者の個人演説会	候補者の街頭演説	政党の演説会	候補者の新聞広告	候補者ののがき	候補者のポスター	候補者のビラ	候補者の連呼	候補者のホームページやSNS	電話による勧誘	政党のポスター・ビラ	政党の機関紙	家族との話しあい
昭和54年	1099	40.1	28.8	26.3	10.6	21.0	10.7	36.2	—	33.1	—	19.2	32.4	—	32.7
昭和58年	1857	53.4	27.6	41.8	9.2	31.8	25.7	38.9	—	48.2	—	29.8	45.6	—	30.5
昭和62年	1921	52.7	28.8	43.8	9.5	28.6	27.5	49.2	—	53.3	—	34.8	49.2	—	24.9
平成 3年	1574	51.3	26.6	45.9	8.2	29.3	25.9	50.2	—	53.7	—	36.7	49.6	—	22.2
平成 7年	1496	47.7	24.6	39.5	5.9	25.9	21.1	43.9	—	47.0	—	33.4	42.3	—	24.1
平成11年	1650	47.1	22.8	39.0	7.1	23.6	20.5	44.4	—	41.0	—	31.5	46.3	—	20.2
平成15年	838	37.8	21.1	32.0	6.4	14.1	17.4	41.1	—	31.5	—	22.2	23.6	10.9	17.4
平成19年	640	42.0	18.0	38.9	5.3	16.9	20.8	44.5	—	33.0	—	18.8	28.1	13.1	14.7
平成23年	1201	37.1	15.1	33.1	7.8	13.7	15.2	42.0	—	24.7	—	14.0	25.8	8.5	15.2
平成27年	966	38.8	15.4	30.1	11.3	12.5	13.4	28.7	—	17.4	2.7	8.5	22.8	12.1	13.6
平成31年	1128	38.8	12.2	28.5	9.0	16.0	10.5	33.4	16.4	14.2	5.1	6.0	19.2	7.7	16.6

	回収数	近所の人との話しあい	職場での話しあい	友人・知人、親せきのすすめ	勤め先関係の推せん	労働組合関係の推せん	業者団体（同業組合・商店街など）の推せん	自治会、婦人会、老人会、趣味やスポーツの会などの地域団体の推せん	その他の団体（宗教団体、文化団体など）の推せん	政党、候補者、候補者の後援会の推せんや依頼	新聞の選挙報道（解説、論評、ニュースなど）	ラジオやテレビの選挙報道（解説、論評、ニュースなど）	その他	とくにみたり、きいたりしたものはない	無回答
昭和54年	1099	10.9	5.1	12.8	2.1	4.4	3.7	9.0	6.6	17.3	20.2	19.2	0.4	2.2	1.3
昭和58年	1857	10.4	6.8	20.8	5.0	4.5	5.4	10.8	16.2	25.8	31.3	27.5	1.0	2.3	2.9
昭和62年	1921	10.0	5.5	18.8	5.1	4.5	4.1	7.4	11.8	23.4	32.0	27.7	0.6	2.3	3.7
平成 3年	1574	8.3	4.3	16.1	4.6	5.2	3.8	7.1	11.2	21.0	35.4	29.2	0.4	1.4	2.5
平成 7年	1496	8.4	5.2	18.2	4.7	4.1	2.4	5.9	11.3	19.5	32.4	28.2	1.4	2.7	2.9
平成11年	1650	7.5	4.4	16.5	3.9	3.7	2.4	6.7	10.4	16.5	30.2	27.6	0.7	2.8	3
平成15年	838	7.8	4.3	17.1	4.3	3.1	1.6	6.2	9.7	12.9	16.5	15.6	1.0	3.7	3.7
平成19年	640	5.8	3.1	18.9	2.2	2.3	1.7	2.5	8.9	12.3	17.0	14.7	1.7	7.3	1.7
平成23年	1201	5.7	4.7	14.0	2.1	1.9	0.8	3.1	4.7	7.7	22.1	25.6	2.2	6.3	2.3
平成27年	966	5.7	3.5	6.9	1.0	0.2	1.0	1.2	5.1	7.3	22.2	27.7	1.3	5.0	19.4
平成31年	1128	4.2	3.4	8.4	0.8	0.4	0.6	0.8	3.5	4.7	25.9	36.6	2.5	9.0	2.8

注）数値は回収数を 100 とした%

(16) 接触した臨時啓発事業 (Q16)

- ・臨時啓発事業で接触したものを複数回答で挙げてもらった。「とくにみたり、きいたりしたものはない」は9.2%に過ぎず、9割程度は何らかの活動に接触している。また、平均回答個数は2.54個で、一人あたり2つないし3つの活動に接触している。
- ・接触率で最も高いのは、「ポスター・ビラ」で56.2%、以下、「宣伝カーのよびかけ・清掃パッカー車の広報」42.0%、「「区の広報紙」の選挙関係の記事」、「選挙関係の広告・記事」の34.1%と続いている。
- ・従来からの傾向から大きな変化はないが、ポスター類や車での広報への注目がやや減ったこと、ホームページやツイッターへの注目がまだまだ小さいものの少しずつ増えていることを指摘できる。

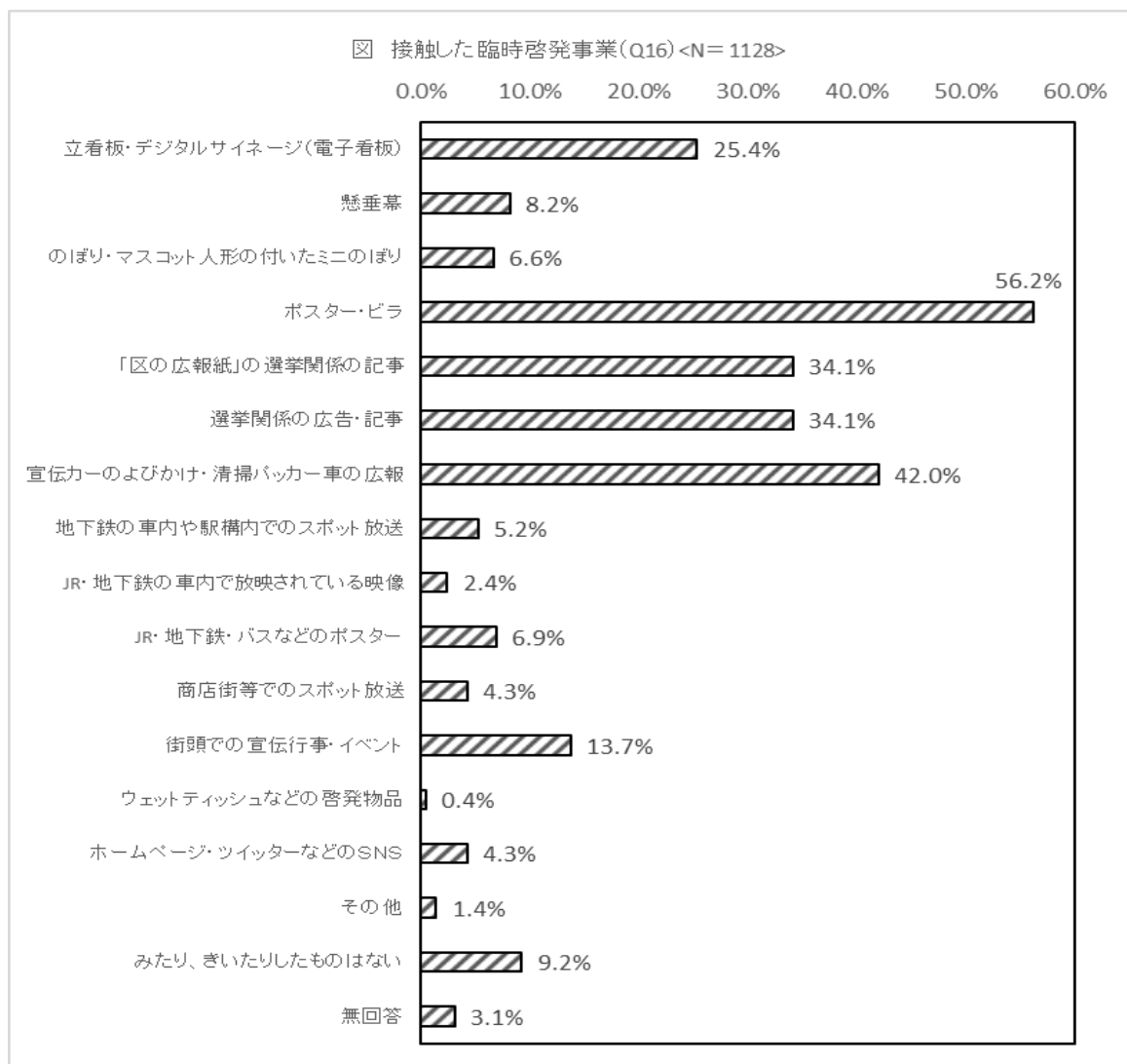


表 接触した臨時啓発事業（時系列変化）

	回収数	立看板	横断幕	懸垂幕	選挙管理委員会のアドバルーン	のぼり・マスコット人形の付いたミニのぼり	ポスター・ビラ	「市政だより」の選挙関係の記事	「区の広報紙」の選挙関係の記事	フリーペーパーなどの選挙関係の記事	宣伝カーのよびかけ・清掃パッカー車の広報	テレビ・ラジオなどのスポット放送
昭和54年	1431	43.5		15.5	-		60.2	14.8	-	-	64.4	36.8
昭和58年	1857	56.0	14.2	16.4	-	11.3	63.9	47.2	-	-	71.9	31.2
昭和62年	1921	63.7	12.4	21.2	-	11.9	70.4	45.2	-	-	74.4	32.1
平成 3年	1574	66.2	13.0	21.9	-	15.4	70.0	49.6	-	-	72.1	29.8
平成 7年	1694	54.4	9.4	15.5	-	12.9	61.2	43.9	-	-	72.1	29.8
平成11年	1650	63.8	10.4	17.8	-	14.6	66.9	38.9	30.2	-	62.3	28.1
平成15年	838	57.9	12.8	7.2	-	16.9	54.9	37.9	23.3	-	25.6	14.0
平成19年	640	59.5	11.9	4.4	-	17.3	53.4	37.8	24.7	3.6	61.1	16.1
平成23年	1201	57.9	12.2	5.6	0.8	6.7	55.5	36.7	22.7	4.2	37.3	20.6
平成27年	966	23.2	3.9			7.5	63.1	36.1		35.2	50.4	-
平成31年	1128	25.4	8.2			6.6	56.2	34.1		34.1	42.0	-

	回収数	J R・地下鉄の車内や駅構内でのスポット放送	J Rの車内で放映されている映像	地下鉄・バスなどのポスター	商店街等でのスポット放送	街頭での宣伝行事・イベント	ティッシュペーパーなどの啓発物品	ホームページ・SNS	該当ビジョンや映画館でのスポット放送	その他	みたり、きいたりしたものはない	無回答
昭和54年	1431	4.7	-	6.0	-	20.5	3.5	-	-	-	5.4	3.8
昭和58年	1857	4.8	-	7.3	-	28.8	4.0	-	-	-	1.9	2.8
昭和62年	1921	6.5	-	14.1	-	27.9	3.8	-	-	-	2.0	3.1
平成 3年	1574	8.8	-	18.1	-	27.5	3.2	-	-	-	1.3	20.0
平成 7年	1694	6.3	-	10.4	-	25.8	2.1	-	-	-	2.1	5.0
平成11年	1650	7.3	-	9.2	-	29.6	2.4	-	-	-	2.8	37.0
平成15年	838	5.8	-	9.5	-	27.3	1.4	0.5	1.3	-	2.9	4.4
平成19年	640	5.8	-	7.2	-	20.9	2.7	0.8	0.8	-	3.9	0.9
平成23年	1201	6.6	1.2	9.1	2.8	12.4	2.1	1.7	0.7	-	7.1	1.2
平成27年	966	8.1	1.2	11.3	4.6	19.6	0.9	2.9	-	1.9	4.9	3.9
平成31年	1128	5.2	2.4	6.9	4.3	13.7	0.4	4.3	-	1.4	9.2	3.1

注）数値は回収数を 100 とした%

(17) 候補者決定の判断材料 (Q17)

- ・ 候補者決定の判断材料については、「十分だった」が 13.9%、「まあまあだった」が 39.5%で、両者を合わせると、充足していたという人は 53.4%と半数以上を占める。一方、「多少、不足だった」は 20.3%、「不足だった」は 12.1%で、両者を合わせると、不足だったという人は 32.4%である。
- ・ 候補者決定の判断材料の充足度は平成 3 年以降、ほぼ同程度の評価となっている。

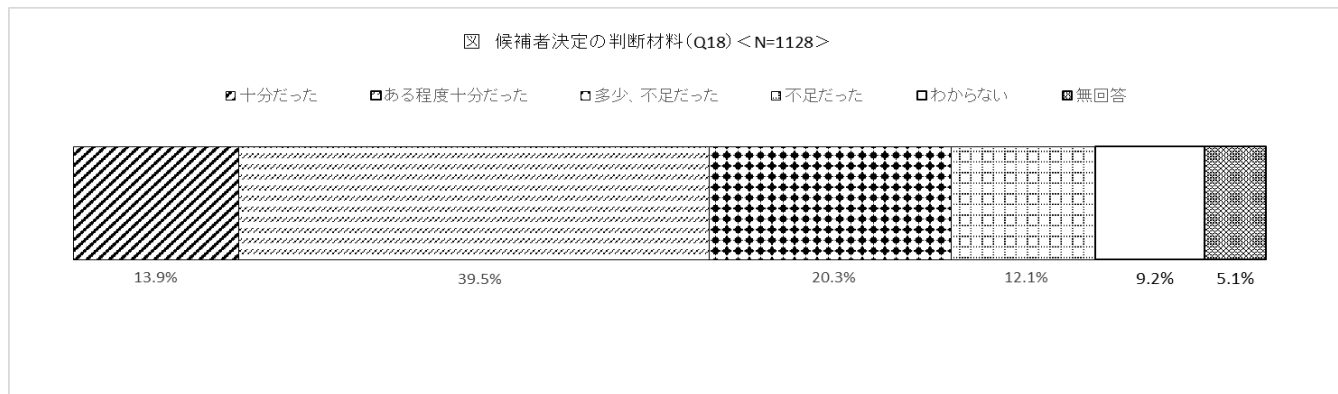


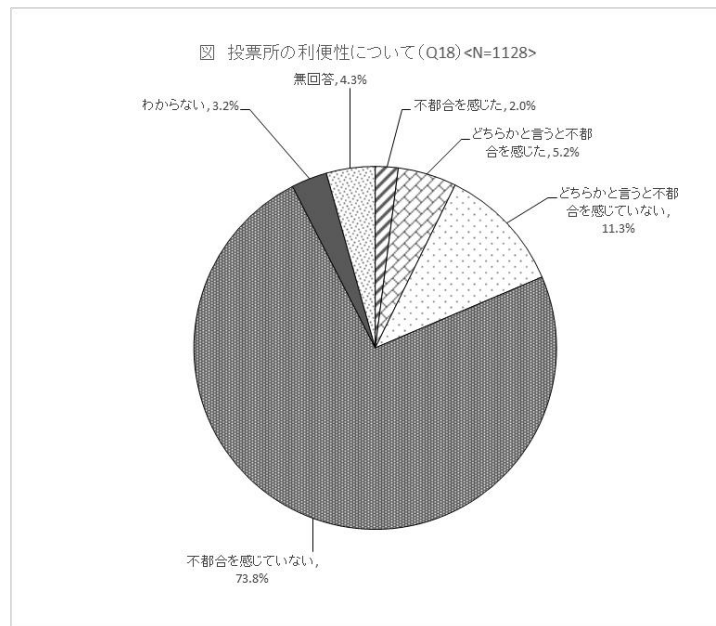
表 候補者決定の判断材料 (時系列変化)

	回収数	足りていた計	十分だった	ある程度十分だった	不足だった計	多少、不足だった	不足だった	無回答	わからない	どちらでもない
昭和54年	1368	48.0	13.9	34.1	26.4	19.9	6.5	3.3	—	16.6
昭和58年	1857	62.7	19.7	43.0	30.2	18.2	12.0	7.2	—	—
昭和62年	1921	61.7	18.1	43.6	29.2	18.4	10.8	9.1	—	—
平成3年	1574	54.3	15.5	38.8	36.4	19.9	16.5	9.2	—	—
平成7年	1496	57.5	15.8	41.7	33.8	18.0	15.8	8.7	—	—
平成11年	1650	58.0	16.9	41.1	33.1	18.3	14.8	8.8	—	—
平成15年	838	56.3	18.5	37.8	36.4	19.7	16.7	7.3	—	—
平成19年	640	53.1	15.8	37.3	41.9	21.9	20.0	5.0	—	—
平成23年	1201	52.6	14.6	38.1	43.9	27.0	16.9	3.5	—	—
平成27年	966	56.8	19.0	37.8	36.2	23.0	13.3	6.9	—	—
平成31年	1128	53.4	13.9	39.5	32.4	20.3	12.1	5.1	9.2	—

注) 数値は回収数を 100 とした%

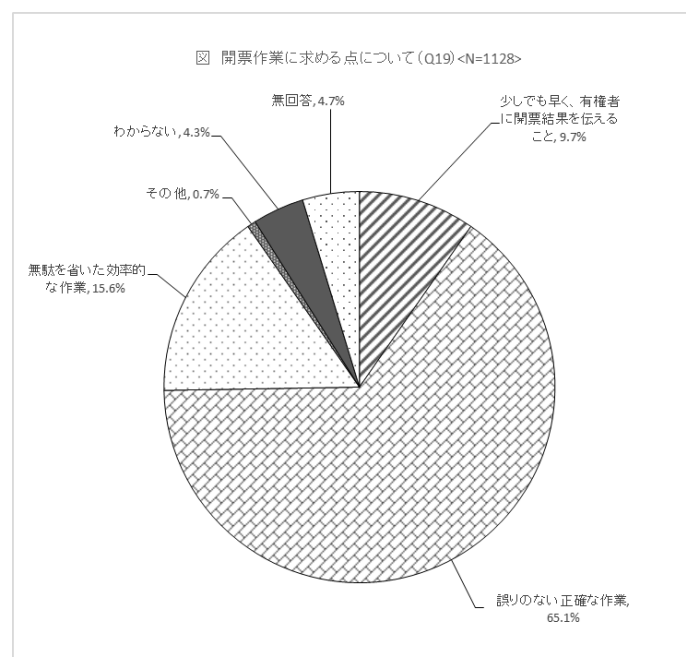
(18) 投票所の利便性について (Q18)

- 投票の場所について、不都合を感じた人は、「不都合を感じた」・「どちらかという和不都合を感じた」の両方をあわせて7.2%であり、ほとんどの人が不都合を感じていない(「不都合を感じていない」・「どちらかという和不都合を感じていない」の両方をあわせて85.1%)。



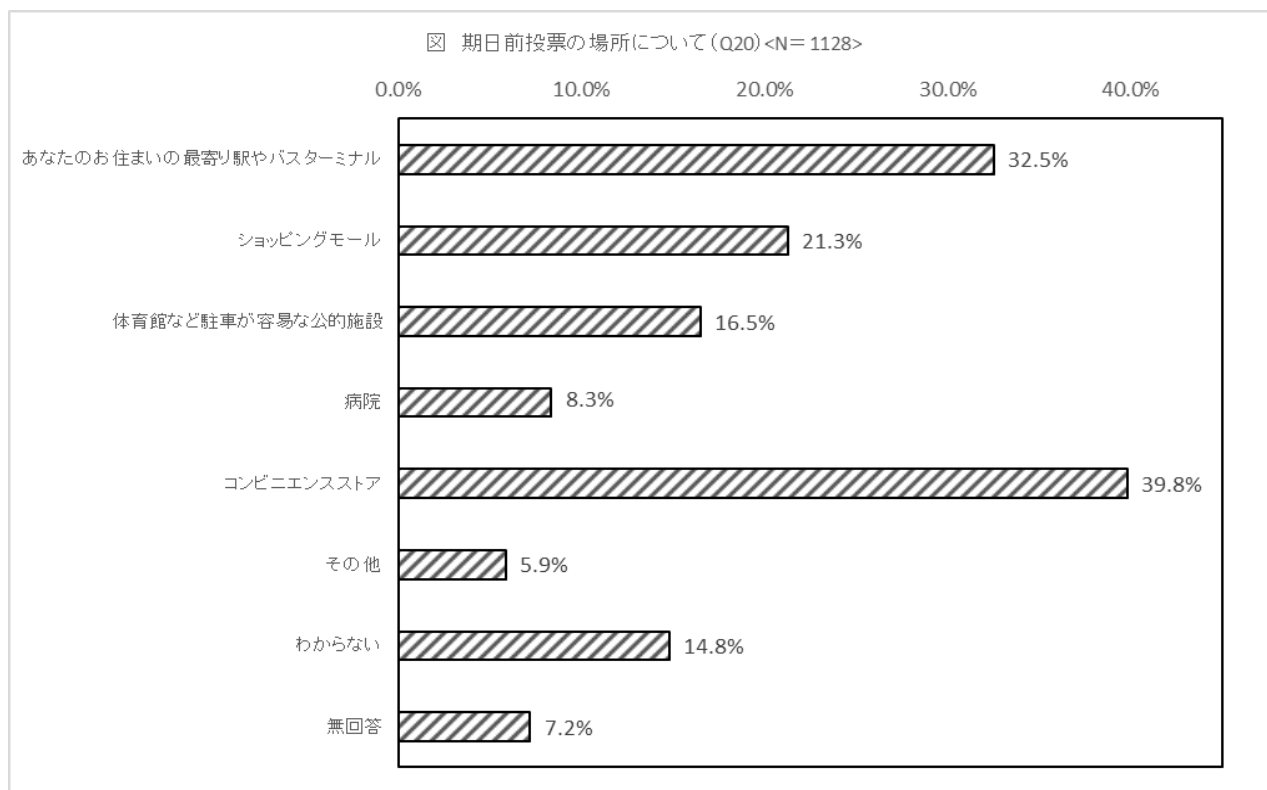
(19) 開票作業に求める点について (Q19)

- 開票作業に際し重視すべき考え方を尋ねたところ、「誤りのない正確な作業」を望む人が最も多く65.1%に上る。「無駄を省いた効率的な作業」が15.6%、「少しでも早く、有権者に開票結果を伝えること」は9.7%であり、速さや効率性よりも正確性を望む声が非常に多かった。



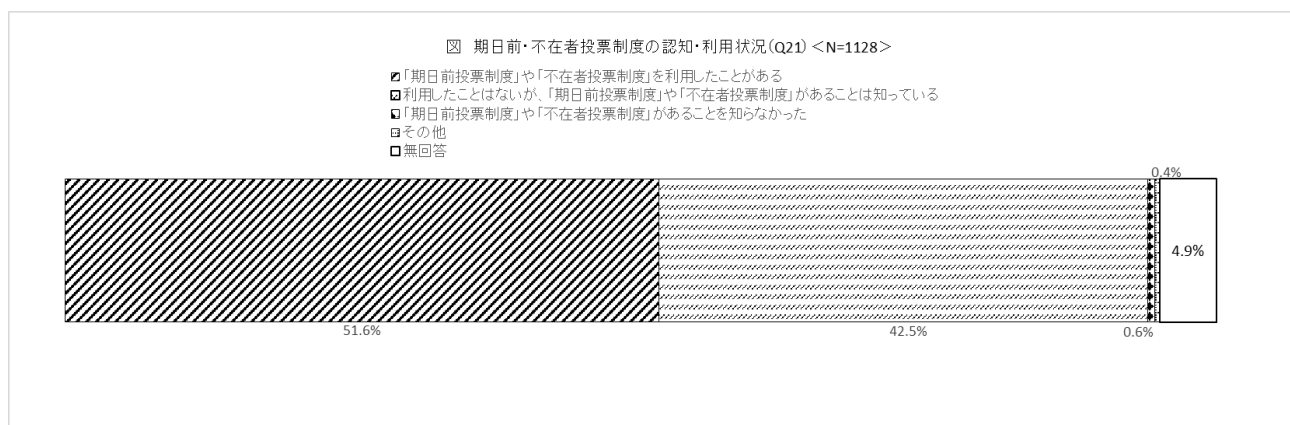
(20) 期日前投票の場所について (Q20)

- ・期日前投票で利用してみたい場所を複数回答で選んでもらったところ、最も多かったのは「コンビニエンスストア」で 39.8% の人に選ばれた。以下「あなたのお住まいの最寄り駅やバスターミナル」32.5%、「ショッピングモール」(21.3%)、「駅が容易な公的施設」(16.5%)が続く。



(21) 期日前・不在者投票制度認知状況・利用状況 (Q21)

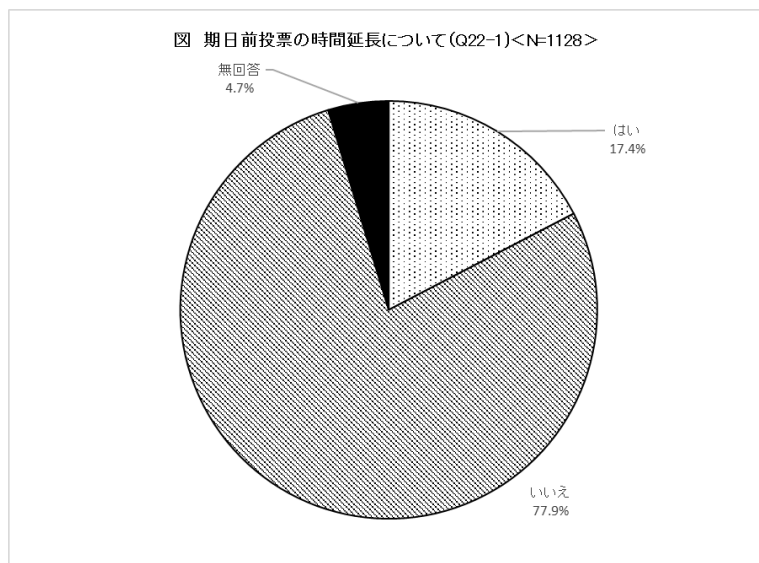
- ・期日前投票制度、不在者投票制度の認知・利用率は 94.1% であり、ほとんどの人がこの制度を認識している。
- ・これらの制度を「利用したことがある」人は 51.6% おり、また「利用したことはないが制度があることは知っている」人は 42.5% である。他方、「制度があることを知らなかった」人は、わずか 0.6% に過ぎない。



（２２）期日前投票の時間延長について

期日前投票の時間延長について（Q22-1）

- ・期日前投票の時間延長について、知っている人は17.4%で、知らない人は77.9%と8割弱の人が時間延長の情報を認知していなかった。



期日前投票の時間延長の情報源（Q22-2）

- ・時間延長の情報源については、「投票案内状」が63.3%といちばん高く、次いで「各区広報紙」の13.3%となっている。

